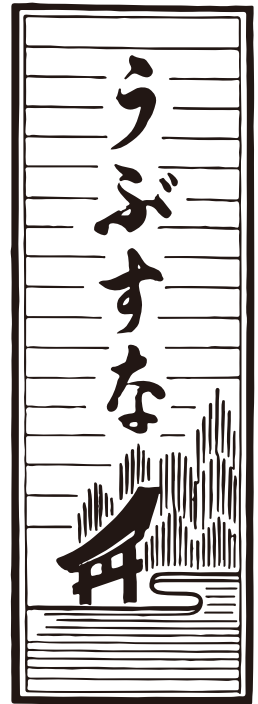


御遷宮への気運高まる



加子母の御用材伐採式の祭場



発行所 岐阜県神社庁
岐阜市藪田南3-8-24
TEL 058-273-3525
FAX 058-273-9927
<http://www.gifu-jinjacho.jp/>

印刷 (有) エムシー
岐阜市本荘西4-12-1
TEL 058-253-5931

年頭の辞



岐阜県神社庁 庁長

本郷 啓介
(金神社宮司)

新年明けましておめでたうございます。先ず以って、皇室の弥栄と斯界の発展を心より祈念いたします。

私共が「本宗」と仰ぎます、伊勢の神宮では、千三百年の昔、天武天皇がお定めになった古式に則り、二十年毎に執り行はれて来ましたが、神宮式年遷宮が、昨年の「神宮御樋代木奉迎送」を嚆矢として、来る令和十五年の斎行に向けて諸準備が進められてをります。二十年に一度の式年遷宮は、単に建物を新しくするに止りません。遷宮を通して、日本人としての始原の姿に立ち返り、時を越えて絶えることなく脈々と受け継ぎ伝へられて来た「生命の甦り」のための重要な儀式です。

本年は、愈々第六十三回神宮式年遷宮奉賛会が設立される予定です。県内に於いても、遷宮奉賛会岐阜県本部が設立され、国民総奉賛による募財活動が始まります。お一人お一人の「真心の結集」が

歴史と文化を繋ぎます。

又、伊勢の地に於きましては、神領民及び一日神領民による「第一次お木曳き行事」が行はれます。皆様方には、何卒二十年に一度の奉賛活動に御理解、御協力をいただきますやうお願い申し上げます。

一方、本年は岐阜県神社庁設立八十周年、神道政治連盟岐阜県本部結成五十五周年の佳節を迎へ、四月には、長良川国際会議場に於いて記念大会並神社関係者大会が開催され、これまで神社に功労のある皆様方の記念表彰等が行はれます。多数の御参加を期待します。

今年の干支は「午」です。馬は縁起の良い動物とされ、又、馬といふ文字を左右を反転して書かれているものを「左馬」と呼び、古くから招福の象徴とされて来ました。令和八年には、平和で景気の良い幸福を与へてくれる天馬が現れ、各御社頭の繁栄と皆様方にも輝かしい年になりますことをお祈り申し上げます。

総代会長挨拶



岐阜県神社総代会

会長 桑原 善吉
(伊奈波神社総代)

新年明けましておめでたうございます。令和八年丙午の新春を寿ぎ、皆様の御多幸を心よりご祈念申し上げます。

昨年は石破政権が米国大統領に翻弄され続け、一年で高市新首相にバトンを渡した年でした。その新首相に期待して、株価は史上最高値を更新し、本年もその勢いは留まらないやう願ふ処ですが、世間一般は物価高に苦慮してをり、新政府の手腕に期待する処です。

その様な折、昨年十月に第六十回全国神社総代会大会が長野県で賑々しく開催され、東海地区の開催とあって、当県からも大勢の皆様にご出席いただきました。改めて御礼を申し上げます。

神社本庁統理鷹司尚武様は、式

典の冒頭に、祭礼による賑はひの創出と、そこから生まれる人々とのふれあひが今の日本人には極めて大切であると述べられました。

岐阜県においても、一年を通じて素晴らしい祭りが数多く執り行はれ、其の一つひとつが歴史と文化に育まれて今日に至っております。

大概是、週始めの新聞で、祭りが盛大に開催されたといふ記事を読み、来年こそは……と奮起するわけです。祭事の事前告知が新聞の週末情報欄に掲載されると、もっと世間の関心を集め、大勢の観衆を呼び込む事でせう。是非取材する記者にお願いしませう。

さて、今年は丙午、丙と午どちらも火の性質を持つ事から、「情熱的で強い意志をもって変化してゆく年」とされます。激しさを力に変へ、逆境を乗り越え、良き年として頂きたいと存じます。

結びに、総代・神職各位の益々の御健勝と、神社の御隆盛を心より祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



本部長挨拶



神道政治連盟岐阜県本部

本部長 谷田 吉暢
(桜山八幡宮宮司)

令和丙午の新春を迎へ、謹んで皇室の弥栄をお祝ひ申し上げると共に、伊勢の神宮をはじめ県内各社の御隆昌と氏子・崇敬者各位の御健勝を祈念申し上げ、令和八年の新玉の年の初めをお慶び申し上げます。

先の参議院選挙では、比例代表制で、神道政治連盟の推薦した自民党有村治子候補が、岐阜県全体では三千七十八票を集めて、当選されました。皆様の御協力を頂き、厚く御礼申し上げます。御承知の通り、有村治子議員は、現在自民党総務会長として御活躍中です。

これまで、神道政治連盟は、「公約書」に署名いただいた自民党系候補を推薦し、応援してきました。「公約書」の主な内容は、次のや

うなものです。

皇室の尊厳護持として、男系男子の皇位継承。旧皇族男系男性の宮家への養子縁組を可能とする法整備への努力。女系天皇及び女性宮家への反対があります。歴代天皇陛下は、全て男系で、女性天皇はおいでになります。女系天皇はありません。現在の皇室の状況では、女性天皇が即位なされると、

女系天皇のご即位に繋がる事が危惧されますので、女性天皇にも反対してゐます。二十五代武烈天皇は嫡子を残さないまま崩御され、宮中では男系皇位継承者が見つからなかったため、十五代応神天皇から、男系六代目となる、皇族を離れてゐた方を皇位継承者として、二十六代継体天皇が即位されました。一旦皇籍を離れ、数代を経過した、男系の皇位継承血統の方が皇位に就かれた実例の一つです。天皇制に継続の危機があるのなら、過去に一度もおいでにならなかった女系天皇ではなく、過去に実例のあった男系の方の皇籍復帰を選択する事が正しいと言へます。

選択制夫婦別姓制度にも反対してをります。私共は、同じ姓のも

とに、同一家族といふ連帯感を持つて生活してまゐりました。日本最古の戸籍は、正倉院にあり、美濃の国も記載されてゐます。同一戸籍は同じ姓とするといふ原則が変はると、お墓参りの際に、何々家の墓といふ概念をなくしてしまふ危険があります。婚姻で姓が変はると、今まで積み重ねてきた社会での実績を評価されにくくなるといふ問題も、現在は、制度改革により、希望によつて、旧姓をそのまま使ふ例が、大幅に増えました。家族制度といふものは、歴史や風土・宗教に基いて、国毎に違いがあります。健全な社会では、社会を構成する人々へ、平等に、ある程度の不自由な制限と責任を求める社会ではないでせうか。

また、地域を代表される公人に靖国神社、護国神社への参拝を促進してをります。

我が国が美し国であるために、本年も御協力をお願いして御挨拶とさせていただきます。



神宮大麻頒布始奉告祭 並びに神殿祭斎行

十月二日午前十時、神社庁神殿に於いて神宮大麻頒布始奉告祭並びに神殿祭を斎行した。谷田吉暢副庁長が斎主を務めた。神社庁役員・総代会役員・各支部長が参列し、厳粛に斎行した。

本郷啓介庁長より、桑原善吉総代会長並びに各支部長に神宮大麻及び暦が頒たれた。



祭典後、神宮大麻頒布表彰の伝達を行った。貢献のあった二支部が表彰された。

神宮大麻頒布 表彰支部(敬称略) 養老上石津支部・恵那市支部



向かって右から

岐阜県神社庁長 本郷啓介
養老上石津支部長 森川一俊
恵那市支部長 大島利美
岐阜県神社総代会長 桑原善吉

定例協議員会開催

同日午前十一時、神社庁研修室に於いて、十月定例協議員会を開催した。令和六年度事業報告・決算報告が上程され、協議の結果、いづれも可決・承認された。

【歳出の部】

1	幣 帛 料	2,895,500円
2	神宮神徳宣揚費交付金	48,138,235円
3	会 議 費	5,221,061円
4	神 事 費	2,611,133円
5	庁 費	49,219,989円
6	事 業 費	24,327,632円
7	負 担 金	37,546,465円
8	積 立 金	18,050,000円
9	予 備 費	3,456,312円
	歳 出 合 計	202,647,074円

【歳入の部】

1	幣 帛 料	883,000円
2	交 付 金	127,393,800円
3	神 殿 初 穂 料	39,000円
4	負 担 金	34,104,228円
5	財 産 収 入	56,787円
6	諸 収 入	24,275,100円
7	前 期 繰 越 金	15,895,159円
	歳 入 合 計	202,647,074円

○差引残金 11,180,747円 (次年度へ繰越)

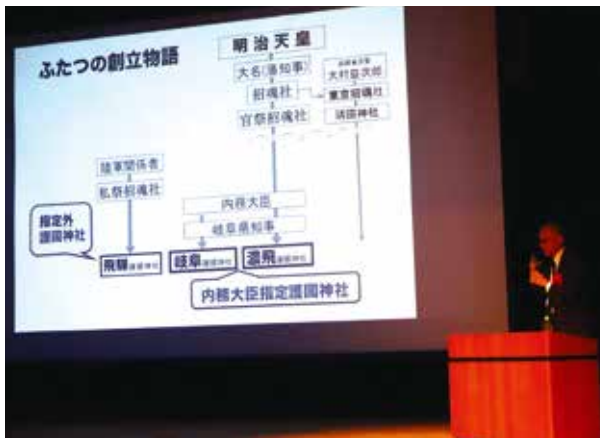
令和六年七月一日～令和七年六月三十日

令和六年度 岐阜県神社庁歳入歳出決算

国民精神昂揚運動 地区神社関係者大会・総会開催

令和七年八月六日から八月九日にかけて、国民精神昂揚運動の一環である地区神社関係者大会・総会が、東濃・西濃・中濃・飛騨・岐阜の順に開催された。主催を、土岐・揖斐郡・山県市・高山市・岐阜市の各支部が担った。

恒例の講演には、護國神社研究家の山中浩市氏を招聘した。演題は、『終戦八十年、改めて考える護國神社参拝の意義』であった。



護國神社の概要と、県内三社の護國神社の設立の経緯について幅広く語られた。

まづ、一般の神社と護國神社の違いに触れ、御祭神は崇敬地出身で、戦争中に殉職された軍関係者の神霊である事、崇敬者は崇敬地に住む全ての人である事を語られた。その神事は、慰霊、顕彰に留まらず、一般神社に近い御祈祷など多面的である事が語られた。又、慰霊と顕彰の面に関しては、戦争の被害者を慰める御霊信仰ではないこと、戦争を美化・賞賛するものではない事が強調された。

県内三社の設立の経緯には多くの時間を割かれた。最初に創建された濃飛護國神社については、大垣藩戸田氏が、戊辰戦争（明治元年（明治二年）で戦死した藩士の神霊を祀るために創建した「仮招魂祠」が始まりである事を説明された。

次に創建された岐阜護國神社については、陸軍歩兵第六八連隊の招魂社創建運動（大正八年）を始まりとする事を説明された。

飛騨護國神社については、明治十二年の祖霊社創建を始まりとし

て、日露戦争後に、飛騨有志が發起人として、靖國神社に祀られる飛騨地区出身者の御分霊を迎へて、飛騨招魂社として設立され、制度の改変によって、昭和十四年に現在の名称に改めたと語られた。

大会に先立ち、十月二十七日午後三時より全国神社総代会役員会が開催された。岐阜県神社総代会桑原善吉会長が、全国神社総代会役員として出席した。

当日は岐阜県から四十八人が参加した。清興として戸隠神社楽部による「戸隠神社太々神楽」が披露され、続いて記念講演として、長野県立大学学長金田一真澄氏により、「グローバルな視点で若者と一緒に地球の未来を」と題した講演が行われた。

八月六日	東濃	土岐支部
土岐市文化プラザ	二六五人	
八月七日	西濃	揖斐郡支部
大垣フォーラムホテル	三七二人	
八月七日	中濃	山県市支部
山県市文化の里	二七〇人	
八月八日	飛騨	高山市支部
高山市民文化会館	三七二人	
八月九日	岐阜	岐阜市支部
伊奈波神社参集殿	八二人	
総計一、三六一人		

全国神社総代会大会

（長野県）

令和七年十月二十八日、長野市のホクト文化ホールに於いて、全国神社総代会大会が開催された。



大会では、始めに神社功労者が表彰され、岐阜県では南宮大社役員の丹羽豊次氏、多度神社役員の生田健治氏が表彰された。

来賓挨拶の後、左記の大会宣言が提案され、可決・成立した。

宣言

大東亜戦争終結八十年の節目の年を迎へるにあたり、我々神社総代は、家族の安寧と祖国の弥栄を願ひながら、その尊き命を擲たれた英霊の御霊に感謝と尊崇の真心を捧げるとともに、その御遺徳を顕彰し、真に豊かな国を築いてゆくべく、国民精神の復興に努めてきた。時恰も第六十三回神宮式年遷宮の諸祭儀が古式ゆかしく斎行されてゆく中で、我々は新たな決意と覚悟を以て、その意義啓発と国民総奉賛の機運の醸成に努めるとともに、建国以来受け継いできた瑞穂の国の麗しき文化と伝統を力強く継承することを期し、次の目標を掲げ、共に邁進することを誓ふ。

一、第六十三回神宮式年遷宮に向けて神宮奉賛の誠を捧げ、神宮大麻の頒布活動に一層尽力するとともに、皇室敬慕の念の醸成に努める。

一、神職と一致協力して、祭祀の厳修と適正な神社運営に努めるとともに、地域社会の活性化に資するべく、伝統文化の継承と共同体意識の昂揚に努める。

一、鎮守の森の保護育成を通じて、次代を担ふ健全な青少年の教化育成に努める。

右、宣言する。

令和七年十月二十八日

第六十回全国神社総代会大会

神宮新穀感謝祭 参列

十二月四日、九日、十一日の三日間、神宮に於いて、神宮崇敬会の主催による新穀感謝祭が斎行された。岐阜県からは四日に、庁長・副庁長・役員・支部長が参列した。



午前中の神宮参拝は二部に分かれ、第一部参列者は、午前七時五十分に宇治橋前に集合、八時に外宮、九時に内宮の特別参拝を行ひ、九時四十分から内宮神楽殿にて神楽を奉納した。第二部参列者は、八時五十分に外宮前に集合し、九時に外宮、十時に内宮の特別参拝を行ひ、十時四十分から神楽を奉納した。その後、参列者は神宮会館にて合流し、昼食後、大講堂にて午後零時三十分より始まった式典に出席した。

氏子祖霊殿祭・

神社総代代議員会

令和七年七月十七日、岐阜県神社庁神殿に於いて、桑原善吉岐阜県神社総代会会長の主催により、来賓に本郷啓介庁長、谷田吉暢副庁長を招いて、氏子祖霊殿祭を催行した。斎主を上月智也副庁長が務めた。

祭典後、研修室に於いて岐阜県神社総代代議員会を開催した。会議の始めに、桑原会長の全国神社総代会理事就任が報告され、会長が議長となつて会議が進められた。



議案として、前年度事業報告と、新年度の事業計画が提出され、いづれも可決・成立した。



岐阜県女子神職会活動報告

岐阜県女子神職会では、令和七年七月二十九日に、岐阜市の加納天満宮で、総会と教養研修会を開催しました。(株)三重軸装の杉山翠社長と杉山広規専務のご指導のも

と、御朱印帳を作製しました。色とりどりの布を選んで表紙に貼り付け、角は職人の杉山先生に仕上げていただきました。その後、表具の説明と作品についてのお話を拝聴しました。掛け軸については、「昨今の住宅事情に合はせた小さな軸もあるので、身近な所に掛けてほしい」とおっしゃいました。

全国女子神職教養研修会は、令和七年七月二十二日に神社本庁で開催され、次のお二方の講演を拝聴しました。

① 國學院大學研究開発推進機構教授 深澤太朗先生ふかざわ たろうの「伊勢の神宮と出雲大社の考古学」

② 大阪大学名誉教授 武田佐知子先生たけだ さちこの「卑弥呼からの古代の衣服と社会・国家・国際関係」

全国女子神職祭祀研修会は、令和七年七月九日～十一日に神宮道場で行はれ、全国女子神道行法錬成研修会は、令和七年八月二十六日～二十七日に石上神宮で行はれました。岐阜県からは、各研修会に一名ずつ参加しました。両研修会は、全国女子神職協議会設立以来尽力された先輩方、並びに神社本庁、石上神宮の方々のご尽力のお

陰で開催される貴重な研修会です。これらの研修会等への参加を希望される方は、岐阜県女子神職会に加入して、共に研鑽を重ねていただきたいと思います。

☎〇五八四―二二―三六九二

会長 服部 直美



岐阜県神道振興会 創立六十五周年記念事業 「県内護國神社参拝及び研修会」

当会創立六十五周年記念事業の一つとして、七月三日、「県内護國神社参拝及び研修会」を開催した。

今回は中濃・飛驒・東濃の会員が三社に分かれて英霊の御魂に玉串を捧げ、郷土を守った先人への感謝と恒久平和への祈りを捧げた。

その後、護國神社研究家の山中浩市氏こういちを講師に迎へ、「県内の護國神社について」と題した研修会を開催し、護國神社の成り立ちや岐阜県内三社の由来、英霊顕彰の意義などに関する講話を拝聴した。飛驒地区の会員は、飛驒護國神社で対面受講し、中濃・東濃地区の会員は岐阜護國神社に集合して、講演の映像を視聴するといふ、分散型中継形式を採って、多くの会員が参加することができた。

岐阜県内には全国的にも珍しく、三社の護國神社（濃飛護國神社、飛驒護國神社、岐阜護國神社）が鎮座してゐる。他県では昭和十四年の内務省令により「一県一社」

が基本原則となったが、当県では、地域の想いや特色が反映された結果、現在においても三社の護國神社が守られてゐる。このやうな歴史を踏まへ、当会では、周年事業として、県内護國神社三社を参拝し、各地域の英霊に対する慰霊・顕彰を行ってきた。参加者一同、県内三社の特異性に理解を深めるとともに、自らの地域に対する誇りと責務を胸に刻んだ。

本年は周年事業に合はせ、終戦八十年の節目に当たり、会員一同、英霊が遺された想いを継承し、平和を守り、次世代に伝へるといふ使命を自覚した。今後も郷土愛と感謝の心を胸に、学びと顕彰の活動を継続する決意を新たにした。



社寺建築◆御調度品◆御装束

神社・寺御用

株式会社 甲 村

〒463-0075 名古屋市中区新守西1608
電話代表 (052) 792-1202
FAX (052) 792-1293 JR新守山駅店

太鼓作り900有余年 本木製ならではの品格と質の高さは最上級

原木・原皮からの
一貫生産
工場直売在庫豊富
各品速納
カタログ送付諸太鼓製造元 津島神社他多数御用達
○神社・仏閣・教会用○雅楽・能楽用各種○祭礼用・舞台用・他

堀田新五郎 商店

☎(0567) 26-2412(代)

愛知県津島市下新田町5丁目123 FAX 24-7663
http://hottashingoro-taiko.com E-mail: shingoro@pony.ocn.ne.jp建築部 国宝・重要文化財保存修理工事・社寺建築工事
屋根部 檜皮葺・柿葺・銅板葺 (屋根形木工事共)

田中社寺株式会社

代表取締役 田中 敬二

(株)丸繁建築設計事務所

〒500-8483 岐阜市加納東丸町2丁目20
電話 (058) 272-2871(代)
※御見積書等・御一報次第参上致します。【事業内容】 神社建築設計施工・社殿製作・神棚・御霊舎製造販売
神祭具・内陳調度品・おみこし製造販売・レンタル神輿

古の伝統 受け継がれる技 築き上げた信頼



創業明治二十八年

株式会社 唐箕屋本店

〒500-8104 岐阜県岐阜市美園町3丁目4番地
TEL(058)263-3311 FAX(058)263-4300
http://www.tomiyahonten.com
E-mail info@tomiyahonten.com神社・仏閣建築請負
設計施工、神棚、神具

(有)白鳳社寺

(旧 唐箕屋社寺工務店)

鵜工房一級建築士事務所 高崎 勝則

岐阜市金園町4丁目3番地 電話(058)264-0068
https://hakuhouhshaji.com伊勢 赤福
名物本店
〒516-0025
伊勢市宇治中之切町26番地
電話 0120-081-381
https://www.akafuku.co.jp

社殿・神棚・神祭具・御装束・製造販売

株式会社 富田神具

〒503-2122 岐阜県不破郡垂井町表佐1385番地
TEL(0584)22-5320 FAX(0584)22-5978
http://www.tomida-shingu.co.jp神社・仏閣・灯籠・記念碑・
墓石・造園・他石材工事一式株式会社
松井 石材岐阜県揖斐郡大野町稲富2348
電話 (0585) 32-1114 FAX (0585) 34-1196

神具 装束 大正七年 創業

助 藤屋 助右衛門

〒509-1622 下呂市金山町金山2051
TEL 0576-32-2074 FAX 0576-32-2039社寺一般建築請負
岐阜県伝統建築認定第3号

堀部建設株式会社

岐阜市芥見堀田57番地
TEL (058) 243-1715
FAX (058) 241-2567

謹賀新年

令和8年

顧問 同 問 本 郷 啓 介	副本部長 同 上 伊 月 佐 智 地 嗣 金 也 田 夫 谷 暢	本部長 同 伊 谷 藤 田 治 吉 暢	神道政治連盟岐阜県本部	顧問 同 問 岡 本 太 右 衛 門	副会長 同 丹 洲 羽 桑 岬 原 孝 善 雄 吉	会長 同 桑 原 善 吉	岐阜県神社総代会	副議長 同 日 比 野 良 和	協議員 同 後 藤 直 剛	顧問 同 可 知 重 彦	監事 同 深 谷 耕 平 典	同 森 川 一 俊	同 伊 藤 治 夫	同 牛 丸 大 吾	同 黒 田 正 直	同 栗 山 裕 久	同 服 部 哲 夫	同 天 木 志 乃 夫	同 中 山 征 治	同 可 児 大 喜 彦	同 高 林 康 孝 司	同 洲 岬 孝 雄 吉	同 桑 原 善 吉 也	同 理 事 上 月 智 也 暢	副庁長 同 谷 田 吉 暢 介	庁長 同 本 郷 啓 介	岐阜県神社庁
-------------------------	---	---------------------------------	-------------	--------------------------------	---	-----------------------	----------	--------------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-------------------	-----------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	--------------------------	--------------------------	-----------------------	--------

各務原市支部 副支部長 同 清 後 水 浅 藤 野 正 義 人 一	瑞浪市支部 副支部長 同 小 伊 伊 佐 佐 治 治 山 征 康 利 敏 夫 治	美濃加茂市支部 副支部長 同 渡 河 井 邊 村 戸 清 善 隆 志 亨	美濃市支部 副支部長 同 小 眞 服 林 清 部 辰 隆 男 也 夫	関市支部 副支部長 同 清 丹 栗 水 羽 山 百 裕 年 久 夫	多治見支部 副支部長 同 白 須 石 永 勝 啓 美 之	大垣市支部 支部長 中 川 幹 彦	高山市支部 副支部長 同 洲 細 谷 岬 江 田 雅 吉 紀 暢 暢	岐阜市支部 副支部長 同 後 林 本 藤 郷 直 康 剛 啓 司 介
山県市支部 副支部長 同 山 日 比 田 野 正 良 公 和	本巣郡支部 副支部長 同 高 園 橋 部 秀 隆 和 雄	揖斐郡支部 副支部長 同 所 宗 所 宮 敏 和 彦 史 司	安八郡支部 副支部長 同 若 上 棚 園 野 信 賢 夫 二 一 彦	不破郡支部 副支部長 同 荒 富 井 田 寛 巨 猛	養老上石津支部 副支部長 同 三 高 森 輪 木 川 喜 一 務 弘 俊	海津市支部 副支部長 同 伊 德 山 藤 橋 内 稚 久 和 浩 子	羽島支部 副支部長 同 不 伊 破 藤 一 治 光 夫	中津川市支部 副支部長 同 酒 梅 深 井 村 源 幸 五 司 平
吉城郡支部 副支部長 同 菱 村 文 夫 袖 垣 吉 志 乃 夫 夫	大野支部 副支部長 同 足 中 牛 立 切 正 眞 孝 吾 吾	益田支部 副支部長 同 熊 崎 熊 崎 敏 清 彦 男	恵那市支部 副支部長 同 成 瀬 大 幸 利 久 美	土岐支部 副支部長 同 酒 山 黒 井 路 直 峰 樹 弘 直	可児支部 副支部長 同 不 玉 破 置 一 光 裕	加茂郡支部 副支部長 同 丹 古 川 羽 瀬 上 雅 義 芳 郎 猛	郡上市支部 副支部長 同 原 西 平 神 頭 澤 安 克 法 雄 典	武儀支部 副支部長 同 石 山 可 場 田 公 已 章 治 喜

皇紀2686年

新年 互 礼

岐阜市御手洗三九三番地 岐阜護國神社 電話〇五八二六四四三二 二六四二七八一	高山市一之宮町五三三番地 飛驒一宮水無神社 宮司 牛丸大吾 電話〇五七七五三二二〇〇一	不破郡垂井町宮代一七三四番地の一 南宮大社 宮司 上月智也 電話〇五八四二二二二三五	岐阜市伊奈波通一丁目一番地 伊奈波神社 宮司 可知重彦 電話〇五八二六八二五二一代 FAX〇五八二六八二五二一三	高山市桜町一七八番地 桜山八幡宮 電話〇五七七三三二〇二四〇
岐阜市金町五丁目三番地の一 金神社 宮司 本郷啓介 電話〇五八二六八二二二六代 FAX〇五八二六八二二二八六五	岐阜市加納天神町四丁目一番地 加納天満宮 宮司 林 康司 電話〇五八二七一〇七〇六	岐阜市長良一九七二一 天神神社 宮司 林 清和 電話〇五八二二二二七七〇三 FAX〇五八二二二二二二六六	大垣市西外側町一丁目一番地 八幡神社 宮司 中川幹彦 電話〇五八四七八四九七七	大垣市荒尾町字南瀬古一二八三番地の一 御首神社 宮司 三浦 篤 電話〇五八四九一三七〇〇
関市南春日町一番地 春日神社 宮司 伊佐地 金嗣 電話〇五七五二二二〇五七〇	関市貴船町二十番地 貴船神社 宮司 玉岡正臣 電話〇五七五二二二〇九二	土岐市泉町久尻七八四番地 久尻神社 宮司 井口進二 電話〇五七二五五三九九五	多治見市笠原町二九〇〇番地の一 笠原神明宮 宮司 黒田和朗 電話〇五七二四三二二二五	土岐市妻木町三〇五一番地の一 八幡神社 宮司 黒田正直 電話〇五七二五七六四四一 FAX〇五七二五八〇〇五七
美濃市須原四六八番地の一の一 洲原神社 宮司 五十嵐 義郎 電話〇五七五三二二二六三	加茂郡白川町水戸野一〇九六番地 大山白山神社 宮司 安江智之 電話〇五七四七六二二二三	飛驒市古川町上気多二二九七番地 気多若宮神社 宮司 天木 志乃夫 電話〇五七七七三二二五六八	高山市神田町二丁目一四番地 飛驒総社 宮司 堀之内 由人 電話〇五七七三二二〇六八七	飛驒市神岡町船津一八二三番地の二 大津神社 宮司 結城 泰宏 電話〇五七八二二〇二五四
美濃市大矢田二五九六番地 大矢田神社 宮司 眞清辰也 電話〇五七五三三二〇一六五	可児市中恵土二二五九番地の一 子守神社 宮司 溝口 貴靖 電話〇五七四六二二五二二	大矢田神社	桜山八幡宮	桜山八幡宮



神宮大麻暦頒布始祭

及び神職祭祀研修会

多治見支部 支部長 須永啓之

十月二十八日、多治見市の白山神社に於いて、令和七年神宮大麻暦頒布始祭が、支部の神職・総代三十六名の参加をもって開催され、各神社総代に授けられた。「御樋代木奉迎送」に御奉仕できた節目の年に、一体でも多く受けていたどうかと、気持ちを新たにしたい。

その後、全国各地で自然災害が多発した今年の状況に鑑み、市が作成したハザードマップによって、各神社で今後発生への恐れがある土砂災害・浸水に対する危険度などを確認し、防災意識を高めた。

午後からは、小嶋抄仁先生こじますえひとの御指導による祭祀研修会を、神職十四名の参加のもとに実施した。

始めに神社祭祀行事作法について、拝札の意義を丁寧に御講義いただき、祭祀を行なふ上での心構へを再確認することができた。祭祀については、玉串たまぐし拝札はいれいを実践形式で行ひ、手の所作しよさや足の運びなどを細部にわたって練習し、案・

薦・帙ひらき・玉串後取などの正しい作法を繰り返し返すことで、しっかり身に付き、大変有意義な研修となった。



神宮初詣

瑞浪市支部

瑞浪市支部は、昭和二十四年から神宮初詣を続けてをり、毎年一月五日、六日の一泊二日の日程で、二見浦の旅館に分宿してゐます。今回の令和八年で第七十八回を迎へました。

参加人員は八百人を超えたこともあったと聞きます。当初、貸し切り列車での移動が暫く続いた後、現在の貸し切りバスでの移動になり、長い間、五百人規模、バス十数台での参拝が続いてゐました。コロナ禍の三年間は、伝統の維持を念頭に、二十人規模で継続しました。コロナ禍明けの一昨年の第七十六回から今回の第七十八回は二百人規模となりました。

一日目は、津島神社を参拝した後、昼食会場で新年互例会を行ひ、来賓の市長、県議、市議会議員、連合自治会長、商工会議所会頭の皆様に新年の御挨拶を頂きました。お時間の許す方は、宿泊まで同行いただきました。

道中、参拝や時機に応じた施設

での研修をしてをり、今回は外宮を参拝した後、猿田彦神社を参拝して、二見浦の旅館に入り、旅館ごとに夕食会を行いました。

二日目は、内宮御垣内参拝、御神樂奉納、おはらい横丁散策の後、帰路につきました。途中、買い物と昼食の休憩をしました。以前は長島温泉や尾張温泉などでの観劇等を行ったこともあります。

参加者の高齢化が進み、今後の課題は、若い人たちの参加を呼びかけ、世代交代を図って行くことです。第六十三回神宮式年遷宮を好機と捉へ、以前の賑はひを取り戻すべく、関係者一同奮闘努力を続けてゐます。



中津川市支部の大暦頒布始祭

中津川市支部

猛暑の夏が過ぎ、秋冷の十月二十四日に、安弘見神社において、中津川市支部神宮大麻暦頒布始祭を斎行しました。来賓として神社庁顧問可知重彦先生と前支部長田口豊年先生をお迎えし、三十五名の協議会員の参列のもと、深谷支部長を斎主として厳肅に執り行いました。当支部においては、以前より神職全員によるご奉仕を基本とし、今回も十八名の神職にて斎行しました。

神職は午前十時に参集し、午後二時より神事を執り行いました。今回は、安弘見神社雅楽演奏者六名（一名神職）に演奏して頂き、雅楽が鳴り響く中で神事が進み、例年以上に厳か且つ華やかな雰囲気の中で神事が進み、大麻頒布向上の気運が一層高まりました。

神事終了後、社務所に場所を移して支部協議会を開催しました。冒頭の来賓挨拶で、可知先生より「神宮大麻は神宮の頒布始奉告祭から始まり、神社庁での奉告祭、

引き続き県内の各支部での頒布式の後に、各神社に頒布され、神社においても頒布式が執り行はれます。その一つ一つの神事を経て、神宮大麻が各家庭に届けられます」とのお話がありました。参加者全員が大麻暦頒布始奉告祭の意義と必要性を共しました。



祭祀舞の奉納

養老上石津支部 服部 直美

支部管内の秋季例祭では、「浦安の舞」が二か所で計六名、「豊栄の舞」が四か所で計十名の巫女さんによって奉納されました。

神社振興対策の一環として、多くの小学校高学年の子供たちに巫女舞を体験してほしいといふ意図で、支部から助成金をいただき、夏休みに、養老中央公民館で講習会を行ってきました。かつては十か所の神社で舞が奉納されておりましたが、昨今はコロナ禍と少子化の影響で、舞を行ふ神社も子供も半減しました。それでも、亡き田代神社大橋正廣宮司（岐阜県の祭祀舞の講師）が約七十年前に舞を導入されて以来、途絶えることなく祭祀舞が奉納されてゐます。

上石津の大神神社では、豊栄の舞を行った巫女さんが、恒例の餅まきに参加しました。一生に一度の貴重な体験ができて、巫女さんたちから笑顔がこぼれておりました。舞の奉納は、巫女さんの家族をはじめ、より多くの方々にお参り



いただくきっかけにもなります。今後とも巫女舞を通して、多くの子供たちに神社を身近に感じてもらうたいと願っております。

教化事業報告

恵那市支部 春日井祥示

国の施策を受けて、恵那市においても、平成三十年度に、総ての小・中学校に「学校運営協議会」を設立し、「地域と共にある学校作り」を推進することとなりました。私は、令和二年に、山岡小学校校長からの依頼によって、山岡学校運営協議会委員（伝統文化担当）の一員となりました。今年度で六年目となりますので、最近の活動の一部を紹介します。

昨年の十月二十三日、恵那市立山岡小学校六年生（二十四名）を対象にして、「神様とお祭り」と題して、講話の時間を頂きました。先づ、この世に生を受け、初めて神社にお参りする「初宮詣」と、それに続く「七五三詣」の話、地域のお祭りに参加する「子供神輿」「宮太鼓」「巫女舞」「獅子舞」等について、お話をしました。

次に、六年生の社会科の教科書に古事記の事が載っているのです。神社本庁監修の「まんが古事記」を見せ、祝詞や笏も紹介しながら

話をしました。子供たちは、神話から現在の神社のお祭りに繋がる話に大変興味を持ってくれました。「鳥居は何故あるの?」「門松は神社に関係ある?」「雛飾りはお祭りと関係ある?」「神様の数へ方は?」。昼食後であったため、睡魔に襲われた児童もゐたやうでしたが、多くの質問がありました。

続く「天岩戸」の段と「須佐之男命の追放」の段についての話では、鼻や口、尻から様々な食物を取り出して食事を作る食物の神・五穀豊穡を司る神である「大宜都比売神」の神話が、特に関心を集めたやうでした。

締め括りに「あなた達の持っているモノ（力・能力）はどんなことに役立ちますか?」と尋ねたところ、暫く考へて、「優しい人が増



えること」「皆が元気になれること」と等と、素晴らしい答へを返してくれました。

貴重な二コマ（九十分）の時間でした。

神職・総代役員合同研修会

益田支部
うぶすな通信員 高木 真子

百名を超える参加者を集め、「献饌・撤饌に於ける準備と作法」「玉串の作り方」の研修が行はれた。益田支部加藤重弘教化部長と各神社の神職が講師となり、講義と実技で研修が進められた。



益田支部の神社では、総代が「神饌」や「玉串」を準備する機会が多くあるため、祭典を肅行するにあたって、今回の研修は神職・総代共に、より実践に繋がる内容となった。

まづ、迷ひ易い「神饌」の魚・野菜の種類とその向き、用具の名称、繰り出し順、お供へ順（位置）、複数になる場合の案の置き方などについて研修した。「選んではいけない魚や野菜があるのか」「三方から神饌が落ちてしまった時はどうするか」などの質問があった。



次に「献饌、撤饌の作法」の実技を行った。神饌への「小揖」を

人に対しての作法だと勘違いしてゐる人が多くゐたので、神饌に対する扱であることを伝え、捧持する高さに気を付けながら、三方の受け渡しの練習を行った。

また紙垂の正しい切り方を習ひ、熱心に練習した。その中で、紙垂が破れたり汚れたりしてゐなかつたらそのまま再度使用してもよいかなどの質問があつた。



紙垂をつける意味を伝えたり、作り方の助言をすることで、神職にとつての研鑽にもなった。

今回は祭典における「神饌」と「玉串」に関するを中心にし

た研修であつた。両方とも祭りにはなくてはならない大切なものであるが故に、研修を繰り返すことで、それぞれの意味を理解した上での神明奉仕に繋がると感じた。

金幣社会（高山市）

令和七年十月二十一日、岐阜県内の金幣社の総会である「金幣社会」が、飛騨地区高山市の、桜山八幡宮・飛騨総社・日枝神社・飛騨天満宮・飛騨護国神社の当番で開催された。県内八十九社の金幣社から、神職・責任役員・総代会はせて百二十四名が出席した。

午前十一時に桜山八幡宮にて正式参拝した後、会場をひだホテルプラザに移し、午後一時から式典並びに懇親会が催された。

式典では神宮遙拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和、主催者挨拶、宣言採択が行はれた。

当日採択された宣言は左記の通り

宣言

第六十三回神宮式年遷宮御桶代木奉迎送が肅行された佳き年に、我等神社関係者は、一致団結して

神宮奉賛の誠を捧げ、敬神崇祖と皇室敬慕の精神を次世代に伝えると共に、大東亜戦争終結八十年の節目を迎へ、英霊顕彰に努め、国民の意識を宣揚し、祖国の繁栄と世界の平和に寄与せんことを期す。

右 宣言する

令和七年十月二十一日

岐阜県 金幣社会

神道政治連盟代議員会

第二十七回参議院議員通常選挙を控へた令和七年七月十六日、岐阜県神社庁研修室において、神道政治連盟岐阜県本部代議員会を開催した。谷田吉暢（たにだよしのぶ）本部長より、岐阜県本部では有村治子（ありむらこ）氏を推薦する方針が示された。

七月二十日の選挙の結果、有村氏は当選された。

また、令和六年度決算報告並びに令和七年度予算案が上程され、協議の結果、いづれも可決・成立した。

権正階基礎研修（甲）開講

十二月一日から五日までの期間、神社庁二階会議室に於いて、権正階基礎研修（甲）を開講した。女性一名を含む八名が受講した。

権正階基礎研修（乙）は、二月二日から六日の開講を予定してゐる。

階位検定講習会（直階）開講

十二月一日から十三日まで、三階神殿に於いて、階位検定講習会（直階）を開講した。女性二名を含む十三名が受講した。



過疎地域神社活性化推進施策

指定神社 郡上市 白山中居神社

宮司 石徹白 洋子

一年目の

施策としてのホームページの開設と、ユーチューブへの動画のアップの効果が出始め、例年の約二倍のご参拝がありました。



ホームページ経由での正式参拝や、祈禱の申し込みも増えてきました。また、例祭に参拝された方が、片付けを手伝って下さったり、日頃清掃に来て下さったりと、神社に奉仕していただける方々が増加してをり、過疎化で祭礼の維持が難しくなっている当神社には、何よりも力強く、また有難く思ひます。五月頃、大雪で傷んだ本殿の覆屋と、手水舎修復工事のご奉賛のお願いを、境内に張り出したとこ

ろ、参拝の方が写真を撮り、SNSに載せて下さったことで拡散し、ご寄付が集まり、修復工事をする事が出来、感謝してをります。

二年目の施策として、ユーチューブに新作動画をアップして、更なる視聴者、参拝者の増加に繋げたいと思ひます。テーマを「神社を囲む自然」として、宮川や長龍泉、短龍泉や浄安杉、御輿宿などに注目して行きます。また、神社の成り立ちを物語風にした、イラスト入りのポストカードの作成や、パンフレットの更新なども検討してゐます。



境内を横切る宮川は、「石徹白創業伝記」には「隈管川」と記され、一年を通して白山の雪解け水が流れる、清浄なる川です。その中ほどにある御手洗大岩には、水神瀬織津姫神が祀られ、古くは、この場所で千座の大祓として夕日祓・

朝日祓が斎行されてゐました。



長龍泉は、宮川の六百メートルほど上流にある滝で、通称「長走りの滝」と言はれてゐます。水量が多く、三段に流れる様は圧巻です。短龍泉は、宮川が石徹白川に合流する処にあり、通称「イカダバの滝」と呼ばれてゐます。



浄安杉は神社の裏山を十五分程登った所に聳え、樹齢約千二百年と言はれ、樹高約三二メートル、幹囲約一二メートル、岐阜県内でも有数の巨木です。江戸時代中期、円周寺の住職浄安が、白山登拝で宿泊する人々からの喜捨で貯めた大金を、

この杉の根本に埋めたといふ言ひ伝へが有ります。

御輿宿とは、通称「杜」と呼ばれる、鳥居の外、上在所の西側に位置する祭祀場です。その昔、橋立山（小白山）で三日三夜の祭祀を斎行してゐましたが、道中に龍が現れ、神輿の登山を妨げました。村人は仕方なく、途中で神輿を止め、その場所を御輿宿として神樂を奉納するやうになりました。あゝる風のない静かな夜、橋立山の御輿宿と上在所のお旅所の間に、一筋の雲が道となり、五彩の光が鮮やかに輝き、一夜にして橋立山御輿宿の杜や森が、現在の御輿宿の場所に飛び移ったと言はれてをります。近年まで、大祭には、この御輿宿でも、宮中の五行舞が伝はつたと云はれる五段の神樂が奉納されてゐました。



神職異動 (敬称略)

○転入

七月 一日 岐阜市

金神社

権禰宜 豊田 将靖

○新任

九月 一日 揖斐郡

三輪神社

権禰宜 宇都宮正人

十一月 一日 吉城郡

高田神社

権禰宜 田近 航

○退職

五月 三十日 岐阜市

神明神社

宮司 太田 義弘

七月三十一日 恵那市

太田神社

宮司 花村 惇枝

八月三十一日 土岐

八王子神社

禰宜 酒井 浩司

十一月 十五日 不破郡

南宮大社

権禰宜 井上 宏紀

十二月 十五日 高山市

桜山八幡宮

権禰宜 元田 清男

○帰幽

七月 三十日 海津市

今尾神社

権禰宜 五島 綾子

八月 十四日 岐阜市

日吉神社

権禰宜 大脇 尚爾



行事予定 (一月～六月)

一月二十一日(水) 新年初会

二月 二日(月)～六日(金) 初任神職研修会

二月 六日(金) 権正階基礎研修会(後期)

二月 二十四日(火) 教化委員会

三月 十一日(水) 支部教化部長会

三月 十一日(水) 神宮大麻頒布終了奉告祭

四月二十二日(水) 岐阜県神社関係者大会

五月 八日(金) 庁長副庁長会

五月 十二日(火) 東海五県連合総会(愛知県)

五月 二十六日(火) 役員会

六月二十四日(水) 神職祖霊殿祭

協議員会

事務長会

岐阜県神社庁設立八十周年 記念
神道政治連盟岐阜県本部結成五十五周年

岐阜県神社関係者大会

日時 令和八年四月二十二日(水曜日) 十二時三十分開会

場所 長良川国際会議場 メインホール

日程 十二時三十分 物故者慰霊祭

十三時 十分 講演

十四時二十分 大会

(十五時三十分 終了予定)



衣紋のはなし

「加冠の儀の装束」

伊富神社 宮司 加納克也

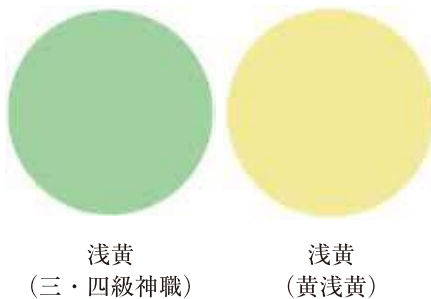
令和七年九月六日、宮中に於いて、悠仁親王殿下の加冠の儀が行はれました。昭和六十年に行はれた父君秋篠宮皇嗣殿下以来の、四十年ぶりとなる儀式でありました。この際の殿下の召された装束は、あまり目にする機会のない珍しいものでしたので、これに関して記します。

頭につけられたのは「空頂黒幘」と呼ばれる、未成年の男性皇族が着用されるものです。三山形の黒羅製、紫の紐で結び留める鉢巻き状のもので、女子神職の額当は、これに似た形状です。

袍は闕腋。腋が縫はれてゐない、狩衣を二幅にしたやうな形状です。もともとは武官が着用した袍であります。動きやすいといふことで、未成年者の装束としても使はれるといふことです。

袍の文様は、男性皇族方の使用される雲鶴文でしたが、その色は見慣れぬ浅黄色でありました。

浅黄と言ひますと、三・四級神職の袴の色を思ひ浮かべるかもしれませんが、この色は別色です。袴の方は、正しくは浅葱色。「浅」とは「薄い」との意味で、葱の色の薄いものといふことなのですが、こちらの表記にも浅黄の文字を当てるやうになったがために、ややこしくなりました。



殿下が召された方の本来の「浅黄」は、その表記通り薄い黄色。混乱しますので「黄浅黄」と呼ばれることもあります。かつて臣下の位とは別の、親王が賜る品位（一品〜四品）といふ位階制度がありました。そこでは黄浅黄は品位を授かつてゐない無品親王の袍色とされてゐました。未成年であれば無品といふことで、現在で

は未成年皇族がこの色の袍を着用されるのです。

袴は大口袴と表袴で、通常の束帯の袴と同じですが、履物は絲鞋といふ「編み靴」でした。舞楽の舞人も履く動きやすいもので、これも未成年用の靴です。

さて、加冠の儀ですが、空頂黒幘を外され、天皇陛下から賜った冠をつけられる儀式。この際の冠の纓は「燕尾纓」と呼ばれ、ダラリと垂れた平安朝形式のもので、纓はもともとは冠を結んだ紐の余りを後ろに垂らしたものであり、それに近い古い様式です。

加冠役が殿下の頭に冠をお被せし、紙捻の掛緒をかけて顎下で結び、和ばさみで掛緒両端を切り落とします。その際の「パチン、パチン」といふ音が響く様子をテレビが放映してゐましたが、印象的な場面でした。

この後に、殿下は、成年皇族の召される通常の黒縫腋袍の束帯に着替へられて、宮中三殿を参拝されました。その際の冠は燕尾纓から普通の垂纓に、履物も束帯時の鞆といふ革靴。凛々しき成年皇族のお姿であられました。

神宮式年遷宮 令和八年の主な行事

御木曳初式(四月)

御柚山より伐り出された御用材を、内宮と外宮の両宮に曳き入れる伝統行事。揃いの衣装を着た伊勢の住民が、木遣歌も勇ましく奉仕する。両正宮や別宮の棟持柱に充られる「役木」といふ代表的な御用材を神域に曳き込むため、「役木曳」とも呼ばれる。

木造始祭(四月)

御造営の作業が始めるに際し、作業の安全を祈る神事。御用材に墨を打ち、小工が斧を打ち入れる所作を行ひ、安全を祈る。

御木曳行事(第一次五月〜九月)

伊勢の地元住民と全国の特別神領民により、御用材を古式のままに両宮域内へ曳き入れる盛大な行事。内宮では五十鈴川を川曳し、外宮では御木曳車で陸曳する。伊勢は勇壮な掛け声と木遣音頭に包まれる。